

「働き方改革は企業の甘えの構造改革」

最近、安倍政権の働き方改革の推進につれて、企業経営者からかなり厳しい不満の声を聞きます。中には厚生労働省には共産党が多数入り入んでいるんじゃないか等という、うがった言い方をする声も聞きました。それほど経営者が厳しさを感じている証左でもあるうと思えます。

しかし日本の労働者が、先進国の中でも最低水準の賃金であり、苛烈な超過勤務が行われている事は事実で、むしろ経営者に甘く、国民の福利厚生を守る事が出来てこなかった日本政府の落ち度であったとも言えます。

最終的に国内経済を支えているのは、労働者です。企業や公的機関の投資や活動

は、最終的に労働者への賃金や税や社会保障費等になる事で、消費経済を動かしているのです。その労働者を実質的低賃金で長時間酷使しては、国民の消費の為に金も時間も奪っている事になります。これでは消費経済が脆弱となり、結果真綿で首を絞めるように、企業収益や税収を弱めてしまいます。経済を好循環させ、経済を拡大して行く為には、消費者即ち労働者を豊かにする事が大事なのです。

私が初当選以来ずっと衆議院の「消費者問題に関する特別委員会」と「経済産業委員会」の委員・理事を途切れなく務め続けてき、またこの度、「厚生労働委員会」の委員も新たに拝命し、自民党労政局次長、働き方改革推進特命委員会事務局次長

を務めているのも、消費者・労働者を取り巻く環境を改善する事が、内需拡大による経済成長にとっても最重要と考え、それを実現する為に一貫して取り組んで来たからです。

日本の政財界は、残念ながら充分にその必要に気付いておらず、変革を疎み、旧来の構造を維持する事に甘んじていると言わざるを得ません。先日の衆議院厚生労働委員会でも、長時間労働問題について、参考人招致及び質疑が行われましたが、4名全ての参考人が長時間労働は正の為に、政府方針よりも踏み込んだ対応が必要との事で一致してしまし

た。従業員の生命や健康よりも、企業の存続を優先する考え方は本末転倒です。自由主義社会の中では企業は

自由競争の中で新陳代謝が行われるのは当たり前です。しかし国民の基本的な生活はどんな事があっても守らなければならないものです。

実は今回の長時間労働是正問題を調査する中でハッキリしてきた事は、日本の企業における労働者評価について、真面目に長時間労働を厭わず働く姿勢を評価する会社が殆どで、仕事の成果や生産性向上が評価されている企業は3%未満であるという事実です。これでは先進国最低の労働生産性と長時間労働がはびこるはずで、働き方改革は日本企業の甘えの構造改革でもあるのです。

Facebookでも活動報告を行っています。(Facebook アドレス) <https://www.facebook.com/anamiyoichi>

皆様のご意見をお聞かせください! お待ちしています。

あ な み よ う い ち

衆議院議員

穴見陽一

後援会
事務所



〒870-1133 大分市大字宮崎867-18 TEL.097-567-1319 FAX.097-567-2010

<http://www.anamin.net> E-mail:info@anamin.net